

## 【新宿のまち・文化】

- ・新宿は、いろいろなところに文化が点在しているのがいいところだが、1960年代頃は、その文化が非常に**大きな渦**を巻いていた気がする。今も1つ1つの文化は非常に魅力的なものが多いが、それが**大きな渦**として見えない気がする。
- ・新宿は文化のまちかと聞かれたら、住んでいる人は文化のまちだと答えるかもしれないが、外側からはそうは見えていないのではないか。
- ・新宿は非常に多国籍でもあり、**様々な文化が渦巻く**。その魅力の伝え方を考えていかないと、新宿が文化のまちとして、どんどん認知されなくなっていくのではないか。
- ・新宿は、多様性の中には雑多さ、無駄なところというか最大公約数的にまとめると消えてしまうものが多く、大事にする雰囲気を出さないと消えてしまう。
- ・新宿駅周辺の再開発は、経済や効率を優先させると、他のまちと似てきて色気がなくなる。
- ・駅周辺が再開発されることで、渋谷など他のまちと同じようになるのではないか。その中で新宿独自の文化をどう**アピールしていく**か。
- ・舞台芸術の中心は、かつては新宿だったと思うが、今は東京芸術祭が豊島区を中心に開催され、豊島区に移った。アートも、六本木アートナイトのようなものが目立つ。新宿はいいものがたくさんあるのに、非常に**アピール力が弱い**のではないか。
- ・駅周辺の紀伊國屋、中村屋等の古くからの文化の拠点を生かしつつ、他区にはない魅力を打ち出して、**新宿を文化のまちとしてアピールしていく方法**を考えないと、文化の中心から取り残されていくのではないか。
- ・**発信力が弱い**のは課題。それを改善というか伝える意味でSFMは意義があったかと思うが、さらに発展する形で、例えば人の流れの動線を決めて、それに**1つのテーマを決めて発信、提案等**が必要と思う。
- ・例えば「ディープな新宿」というイメージで、ゴールデン街はインバウンドがすごく多い。今、発信力で海外の方にも魅力的なところは作れる感じはする。それには、個人ベースの**SNSが非常に効果的**と聞く。
- ・新宿区は23区の中でも特殊で、多様性にあふれ、外国人居住者も非常に多い。いろいろな芸術が多岐に渡り、すごくニューヨークに似ていると思う。
- ・新宿駅南口等にストリートミュージシャンがいる。ニューヨーク市がオーディションをして免許を配布するで、活躍の場になるし、外国では気に入ったらチップを渡したりする。そういうことを積極的にやれたら面白い。
- ・スペインにはサン・ジョルディの日があり、女性が男性に本を贈り、男性が女性にバラの花を一輪贈る習慣がある。ヨーロッパには国際女性デーに男性から女性にミモザを贈る習慣がある。そんなことを、多様性に富み、外国人居住者も多い新宿から発信できたら魅力的な区になるし、新宿に住んで子どもを育てたいという人も増えてくるのではないか。
- ・SOMPO美術館は、理事会の中で新宿区立美術館を目指そう的なところで頑張っている。
- ・新宿区の1つの目玉として神楽坂はもう少し考えてもいい。飲み屋街、裏町とかいい雰囲気と思う人が多い。新宿駅周辺とはまた違った新宿がある。

## 【マーケット】

- ・**少子高齢化**が全国的に影を落とし、文化芸術も後継者の問題だけでなく、**マーケットがどんどん小さくなっている**のを実感する。
- ・舞台、**劇場に来る人のボリュームゾーンは60代と70代前半で、75歳を超えると大幅に減る**。今後もミュージアム、劇場に行く人の出現率が同じであれば、コーホートの人口が減るから、マーケットが小さくなっていく。
- ・政府もいろいろな手を打ち、若い世代を定住させるために文化を使うみたいなことが30年ほど前まで言われていたが、その時代も過ぎ、今は**交流人口**である。
- ・新宿区は、まだ少し時間的余裕がある。条例では、「私たち区民」というのは来街者も全部含む。**新宿区で勉強する人、働く人、住む人は「私たち区民」**で、こういう人たちをできるだけ**増やし、満足度を上げていく**ことが、可能性を追求する最後のチャンスと非常に強く感じる。
- ・文化や芸術を資源として使って観光客を集めるということで、ミュージアムや文化財等が今脚光を浴びているが、本当にそれだけでいいのか。
- ・文化は市場で成り立ち辛いのであれば**公的な関与が必要で、その理由、よさのアピール方法、評価方法、それを社会的な資源の再配分につなげていくのか**等が、全国的に喫緊の課題である。
- ・ループル美術館はコロナ禍前では、年間約1,200万人の来館者のうち4割が無料と聞く。若い方、失業者、高齢者等の方々は無料、他の人たちは高い入場料を払う。持てる人からはきっちりいただいて、そうではない方に開放するのが一番

## 【調査審議事項】

- ・第8期の課題は第7期を継続するのがよい。特に「新宿区全体の展開を見据えた、新宿区周辺地域を中心とする地域の文化」の分析もそんなにされていないのではないか。
- ・基本的には今までの流れで、発信の力や新宿駅が新しくなることについては継続的に話し合う必要がある。
- ・文化やれと言っても賑やかにしなければいいものではない。まずその中の要点みたいなものを見つけることが大事。そういう中で芸術家主体の連帯の促進を更に進めていく必要がある。
- ・芸術文化の振興というと音楽や演劇やパフォーマンス的なものを中心になると思うが、美術館も忘れないようにする。
- ・条例中の「誰もが」について。文化芸術というと、関心のある方にはとても身近ではあるが、縁遠いとか違うなと思う方も多いと思う。でも、区民や新宿を訪れる方は「誰もが」なので、そういう**関心のない方たち、声の届きにくい方たちに対してのアプローチ方法**も視点に入れる。
- ・「誰もが」の中に、障害を持つ方など社会的に弱者、あるいは誰もがいずれ高齢者になるので、高齢になった時にどのように文化に関わり合うのかという視点も話し合えたらよい。
- ・文化芸術というのが、文化と芸術は根本的に違い、基本的に芸術が先にあり、一般的に認知され広く普及すると文化になっていくと思う。例えばK-POPは芸術ではなく文化だと思うが、K-POPの音楽自体を掘り下げていくと全部ドレミファソラシドで、西洋音楽の根本。こういうことから、芸術か文化かを切り分けて議論するのも面白いと思う。

## 【SFM】

- ・**SFMの宣伝効果があまりない**。ガイドブックは、そういうことを全然考えないで、まずどんな文化があるかというまとめで作ったので、もっと発信、知らしめることを考える。
- ・SFMは、プラットフォーム的な役割が最初大きかったが、ここまで継続されている以上、**発信力も必要**だということになるのかなと思う。
- ・美術館は、何らかの支援、寄附等が必要。通常の展示以外に作品の保存にもお金がかかり、広告費にあまりお金がかけられないのが実情
- ・実際、**SFMによる集客効果は今あまりない**。SNS等の活用もまだできておらず、口コミ効果もまだ得られていない状況で**アピール不足**
- ・SFMは、**普段接しない他の芸術分野の方との接点があるのは有効**。区の動きとは別にいろいろなところと接点を持て、一部**コラボレーションが実現**したケースもあった。
- ・事業者の立場では魅力的ではなかなか厳しく、それを線にして面にする動き、そういうグルーピングや働きかけが第三者的にできる新宿区のようなパブリックから働きかけることで芸術団体の魅力が高まり、来館者を増やす好循環をつくるようなことができればよい。
- ・近年は、障害を持つアーティストにロイヤリティ的なものがきちんと還元されるシステムが確立されていると、企業メセナ協議会の賞の対象になりやすい。
- ・SFMのガイドブックも、表紙に使われてもロイヤリティを払えないかもしれないが、表紙を飾るというだけで、描いた方の励みになるというか、すごくいい好循環が生まれるのではないか。
- ・好循環の話は本当に必要なことだと思う。

## 【子ども・人材】

- ・子どもの存在もあまり考えてきてないので、これからは考えていくほうがいい。
- ・今、チラシを配布しない小学校がすごく多い。子どもがチラシを見て、この体験をしたい、参加したい、見たいという機会が失われることに危機感を持つ。
- ・SFMにもたくさん文化があるのに、**子どもがアクセスしにくい**ことに危機感を抱いている。
- ・親が学校のホームページを見たり、チラシの配信もあるが、親のフィルターを通してしまう。親が忙しいとそもそも見ないなど、文化体験がたくさんあってもアクセスが制限される等、**子どもの権利、意見表明権などにすごく制限がかかる**。
- ・最近の若い人は参加型や共感とかを大事にするので、参加や共感等の考え方を入れていただきたい。
- ・美術を必修で学ぶのが中学校までという日本において、いかに国民のアートリテラシーを高めてグローバルに通用する人材を輩出できるかが国立美術館の目標だという話を聞き、本当に重要だと思った。
- ・新宿区もそういう目標を掲げ、新宿に住むといろいろな芸術を小さい頃から自然に身に付けることができ、知らないうちにグローバルに通用する人材に育つようになると、新宿に住みたいと思う人もたくさん出てくるのではないか。
- ・日本では美術館は高い。無料で空いた時間に好きな絵だけを見られるような環境ができれば、国立美術館が目標とすることが達成しやすくなるのではないか。